

1 . 基本機能

RS232 に接続しテキストデータ (アスキーコード) の送受信できるデバイスであれば、ICP Das リモート I/O のほか、PLC、調節計、シリアルプリンター、モデムなどを接続し、テキストデータの送受信を行うことができます。

2 . セットアップ

圧縮ファイル RS232checker.exe を解凍します。デスクトップにフォルダが作成されます。

フォルダ RS232checker 内の SETUP.EXE をダブルクリックします。

自動的にファイルをコピーし、スタートアップメニューに “RS232C-Checker” が作成されます。

3 . アンインストール

Windows の「プログラム追加と削除」を使用してアンインストールを行います。

ほかのアプリケーションが起動しなくなる恐れがあるため、「関連するファイルは削除しない」をお勧めします。

4 . 操作方法

COMPORT, BAUDRATE, DATA BIT, PARITY, STOP BIT を設定します。COMPORT が不明の場合はデバイスマネージャで確認してください。

ポートを OPEN します。COMPORT に問題がある場合は PORT をオープンできません。

送信データのテキストデータの入力欄をクリックします。

キーボードより送信データを入力します。ASC コード欄にアスキーコードが表示されます。全角文字や漢字は入力できません。

キーボードから入力できない特殊コードは左側のソフトキーボードより入力します。

修正は、キーボードの BS で 1 文字消去ができます。また送信データの [消去] をクリックすると、送信データ

受信データの [消去] をクリックすると受信データ、データバイト数、受信時間タイマーが消去されます。

受信データの [自動消去] をチェックをすると、送信時に受信データほかを自動的に消去します。

送信データを一時保存することができます。[書込] をクリックすると、一時保存欄に書き込まれます。

送信データ [消去] の後、[読出] をクリックすると送信データ欄に一時保存欄のデータがコピーされます。

[送信] をクリックすると、COMPORT より送信されます。送信後、データを受信します。

RS232 デバイスよりデータを受信すると、受信データ欄に表示されます。漢字の受信はできません。

データを受信すると、送信してから受信するまでの時間を受信時間の欄に表示します。5 秒以上経過して受信がない場合は「Timeout」を表示します。

データの送受信にあたって DTR/DSR RTS/CTS Xon/off は無視しています。

連続受信が可能です。ただし、前回受信したデータの後に追加されず。必要に応じて受信データの [消去] をクリックしてください。

NUL は送信は可能ですが、受信をすることはできません。

5 . ご使用環境

Windows2000, XP でご使用可能です。

6 . バージョン

RS232C-checker Ver1.0

7 . お問い合わせ

不具合報告や改善依頼などのお問い合わせ先

chikumadenki.y-yabe@kagoya.net 担当 矢部までご連絡ください。